

## (第9章) ウズベキスタン文化芸術訪問団の来日公演

【ウズベキスタン文化芸術訪問団】 33名

・公式メンバー 4名

団長：サイフラエフ・バフティヨル（ウズベキスタン共和国文化大臣）  
アクパロフ・ショフルフ（文化省部長）  
パティロフ・ファルフ（文化省副部長）  
ムラトフ・マフムドジョン（ナボイ大劇場館長）

・ナボイ大劇場団員 21名

（内訳：オペラ歌手6名、バレリーナ・ソリスト・ダンサー11名、  
副館長・コンサートマスター等スタッフ4名）

・Safo（サフォ）クラシックアンサンブル：6名

・その他 2名（コンサートホール美術監督、テレビカメラマン）

●2019年11月17日(日)

ウズベキスタン文化芸術訪問団一行33名は関西空港に到着。サイフラエフ文化大臣とムラトフ・ナボイ大劇場館長は駐日ウズベキスタン大使館の公用車で先発され、文化省部長、副部長を含む31名の訪問団員は、大型バスで舞鶴へ向かいました。舞鶴に到着された大臣と館長を赤れんがパークで堤副市長が出迎え、パーク内で歓談、散策の後、赤れんが博物館へ案内しました。

大臣の公用車より少し遅れて舞鶴入りした団員の一行は、まず五老ヶ岳へ。スカイタワーから見下ろす海岸線の風景に歓声をあげられ、何度も写真に収められるなど、近畿百景第1位に選ばれた絶景を満喫されました。

### 【市民交流会】

夕方から、商工観光センターにおいて市民交流会を開催しました。会場では、協賛企業や市議会、市民応援団などからの70名を超える参加者が訪問団の入場を拍手で出迎え、和やかに開会しました。

歓談の合間には、アトラクションとして、まいづる笑顔合唱団ソネットの元気な歌声が披露されたほか、二人羽織で「うどん」を食べていただくという趣向も催し、合唱団の児童や訪問団のアーティスト達が喜んで参加されました。最後に、平八幡神社の氏子有志による「太刀振り」が披露され、舞鶴の貴重な祭礼芸能を堪能いただきました。

プログラムの進行につれて、参加者の皆さんが訪問団のテーブルを歩き来して話しかけられるなど、まさに市民との交流が図られていました。最後には、参加者全員で記念撮影を行いました。



交流会での市長挨拶



市民との交流



全員で記念撮影

●2019年11月18日(月)

### 【引揚記念館訪問】

翌朝、文化芸術訪問団一行は引揚記念館を訪問されました。ふるさと学習に訪れていた倉梯小学校6年生が国旗を振って出迎えました。館内では約1時間にわたって、日本人抑留に関する史料などを見学され、ウズベキスタンと舞鶴の交流のきっかけとなった引揚の縁についての職員の説明を、通訳を介して熱心に聞き入っておられました。

同公園内では「タシケント第4ラーゲル会」の桜の記念植樹を確認後、引揚棧橋を訪れました。



引揚記念館でのお出迎えの様子



引揚記念館を視察されるサイフラエフ文化大臣

### 【市長表敬訪問】

その後、一行は赤れんがパークへ向かい市政記念館で舞鶴市長を表敬訪問されました。多々見市長からは、今夏ウズベキスタン共和国を訪問の際、休館日だったナボイ劇場を特別に見学させてもらったエピソードなどが語られ、サイフラエフ文化大臣と和やかに歓談されました。記念品の交換後、世界文化遺産地域であるヒヴァ、サマルカンド、ブハラ三地区の歴史的建造物のれんがを大臣から市長に寄託いただきました。これらは、赤れんが博物館で展示させていただくこととなります。



市長表敬訪問の様子



記念品の交換



## 【舞鶴公演】

団員たちは市政記念館での昼食後、総合文化会館へ向かい、念入りな打合せとリハーサルを行いました。

夕刻までは曇り空でしたが、次第に雨模様となり開場時刻には大雨となりました。悪天候にもかかわらず、開場の2時間以上前から人々が集まり、1,000人を超える入場者であふれ、大盛況でした。

午後6時半からいよいよ開演となりました。第1部は舞鶴独自のプログラムです。市長の挨拶のあと、サイフラエフ文化大臣にご挨拶いただき、この日のため高槻市から来られたタシケント第4ラーゲル会の新家苞さんと、ムラトフ館長と一緒に壇上で対面され、記念品を贈呈されました。続いて文化交流として、「まいづる笑顔合唱団ソネット」の合唱と、何度もウズベキスタンで演奏をしておられる箏奏者立道明美先生率いる「箏アンサンブル斗為巾」の演奏が披露されました。

休憩の後は、いよいよ第2部文化芸術訪問団の登場です。アンサンブル Safo（サフォ）が演奏するウズベク民族音楽に合わせ、8人のダンスアンサンブルトゥモルによる華麗なダンスが繰り広げられ、場内がどよめきます。続いて、トリオのバレエ、重厚な男声オペラ、花束のようなダンス、透き通るような女声オペラと次々に繰り出される格調高い演目に、割れるような拍手が響きわたり、まさに夢のような時間でした。

クライマックスは、オペラソリスト全員による「ふるさと」の歌唱、そして、ウズベク民族楽器と箏の協演による「さくらさくら」は、即興とは思えないほどの素晴らしさでした。フィナーレは全員による「祖国は神聖」で見事に締めくくられ、午後8時半に終了しました。



サイフラエフ文化大臣、ムラトフ館長が新家さんと対面



ウズベキスタン民族音楽とダンス



オペラ



フィナーレ

### 【市長主催夕食会】

サイフラエフ大臣、ムラトフ館長は、公演後に市長主催の夕食会に出席されました。舞鶴公演観劇のために東京からお越しいただいたファジロフ駐日ウズベキスタン共和国大使と、来日されたムクシン・フェルガナ州副知事も同席され、会話が弾みました。

### 【団員夕食会】

公演を終えられた団員の皆さんを市内の回転寿司店に案内しました。海がない国にもかかわらず、新鮮な魚介類を好まれる方が多いと聞いていましたが、日本の寿司が口に合うらしく、箸を上手に使って寿司を食べられ、みるみるうちに皿がうず高く積み重なっていきました。どのテーブルも楽しそうに食事されていました。



回転寿司を楽しまれる団員の様子

●2019年11月19日(火) -23日(土)

【高崎日程・高崎公演】

19日朝、訪問団一行は次の訪問先である高崎市へ向かいました。サイフラエフ文化大臣とムラトフ館長を乗せた大使館公用車が先発し、団員たちは大型バスで約10時間をかけて移動しました。晴天のドライブ日和で、昨夜の舞鶴公演の余韻も手伝い、バスの中では団員たちの陽気な歌や演奏が繰り広げられ、劇場さながらの大変楽しい道のりでした。高崎市に到着した後の夕刻には、高崎市内のレストランで高崎市長、市議会議長出席のもと歓迎会が行われました。



舞鶴市⇒高崎市 移動車内にて



恵那峡で日本食を堪能



高崎市での歓迎会にて

翌20日の午前中は、大臣一行は榛名神社見学、高崎アリーナの視察、市長表敬訪問のスケジュールをこなされ、団員たちは、高崎名物だるまの絵付け体験、白衣大観音の見学、昼食の後、午後からは夜の公演のリハーサルのため会場へと向かいました。高崎公演は、9月にオープンしたばかりの高崎芸術劇場スタジオシアターにおいて、午後6時半から午後8時過ぎまで、22演目が上演され、約500席がほぼ満席の盛況のうちに終了しました。





高崎公演の様子



高崎公演フィナーレ

### 【東京公演・東京日程】

21日早朝に一行は、東京へ向けて出発しました。大使館公用車は比較的スムーズに移動しましたが、大型バスは都内の交通規制もあり、東京都港区の赤坂区民センターに到着したのは、東京公演のわずか2時間前という慌ただしさで、ただちにリハーサルに入りました。

ホワイエでは、昨年と一昨年のウズベキスタン展でお世話になった秋野深先生の写真展が同時開催されました。また、中山恭子代議士をはじめ、ウズベキスタン協会や文化庁の関係者も多数来場されていました。東京公演は午後1時から約2時間、高崎公演とほぼ同じ演目で上演され、約400人の入場者でした。終演後のステージ上で、大臣が出演者全員を労われました。



東京公演リハーサルの様子



東京公演の様子

翌22日、サイフラエフ文化大臣とムラトフ館長は東京芸術大学長表敬訪問、東京国立博物館訪問、歌舞伎の鑑賞など精力的なスケジュールをこなされました。一方、団員一行は、大雨の中、東京観光に繰出しました。悪天候でスカイツリーからの視界も悪く、浅草での自由時間の移動にも苦労しましたが、団員の皆さんは、ショッピングなどを満喫して

おられる様子でした。

夕食後には、団員の希望でお茶ノ水や渋谷方面へのオプションツアーも企画し、日本滞在最後の夜を思い思いに楽しめました。

すべての日程を終えられ、23日の夕刻、訪問団一行は、成田空港から帰国の途に着かれました。